

第3回ジェット口跡地活用に係る基本構想市民検討会 報告書

江戸川台駅東口周辺地区再整備事業のうち、ジェット口跡地の活用については、市民で構成される検討会において、活用方針や機能の検討を進めています。

第3回目の検討会を開催しましたので、その内容について下記のとおり報告します。



▲検討の様子

- ・日時：令和6年1月17日（水）19時00分～21時00分
- ・場所：江戸川台東自治会館
- ・委員等出席者：14名

| 委員等 | 所属 | 委員等 | 所属 |
|------|----------|------------------|-------|
| 石田座長 | 早稲田大学 | 加藤委員 | 子育て団体 |
| 坪井委員 | 江戸川台東自治会 | 高野委員 | 商工団体 |
| 熊谷委員 | 〃 | 高坂委員 | 〃 |
| 長瀬委員 | 〃 | 染谷委員 | 障害者団体 |
| 三好委員 | 〃 | 吉岡委員 (熊木委員代理) | 〃 |
| 杉浦委員 | 〃 | 赤地委員 | 市民公募 |
| 樫木委員 | 江戸川台西自治会 | 照沼委員 | 〃 |
| 富田委員 | 高齢者団体 | | |

・市職員出席者：

まちづくり推進部長 梶 健康福祉部長 伊原
まちづくり推進課長 苅込 健康福祉部 次長 宮澤
まちづくり推進課 係長 西山
まちづくり推進課 主任主事 吉野
まちづくり推進課 主任主事 坂本

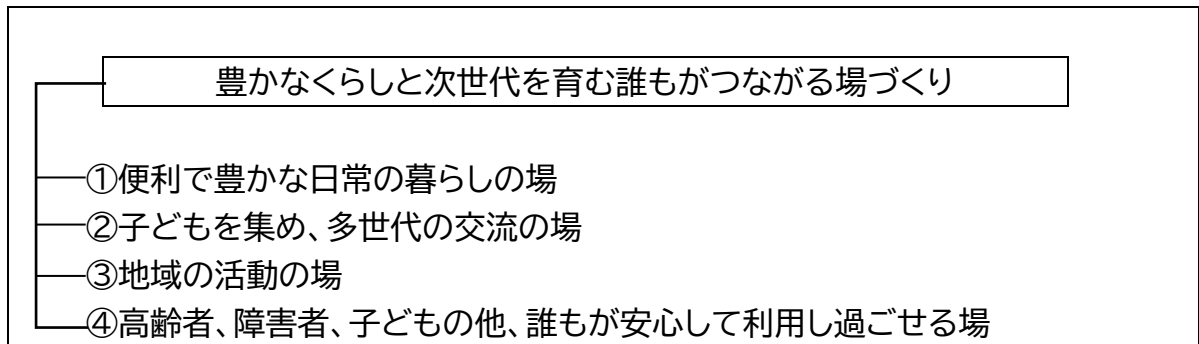
・本検討会の趣旨のおさらいと今後の進め方

- ・本検討会の趣旨と検討事項、目的や流れについて、市からおさらいの説明を行いました。（「ジェット口跡地活用に係る基本構想市民検討会」資料参照）

・議題

(1) 第2回検討会のまとめ

- ・第2回検討会で話し合った内容について、市において整理しました。
- ・その上で、ジェット口跡地の活用方針について、下記のとおり、市においてまとめ、説明しました。（ジェット口跡地活用に係る基本構想市民検討会」資料参照）



(2) ジェット口跡地の必要な機能について

- ・活用方針やこれまでの検討会の意見から必要な機能について、下記のとおり、市においてまとめ説明しました。（「ジェット口跡地活用に係る基本構想市民検討会」資料参照）

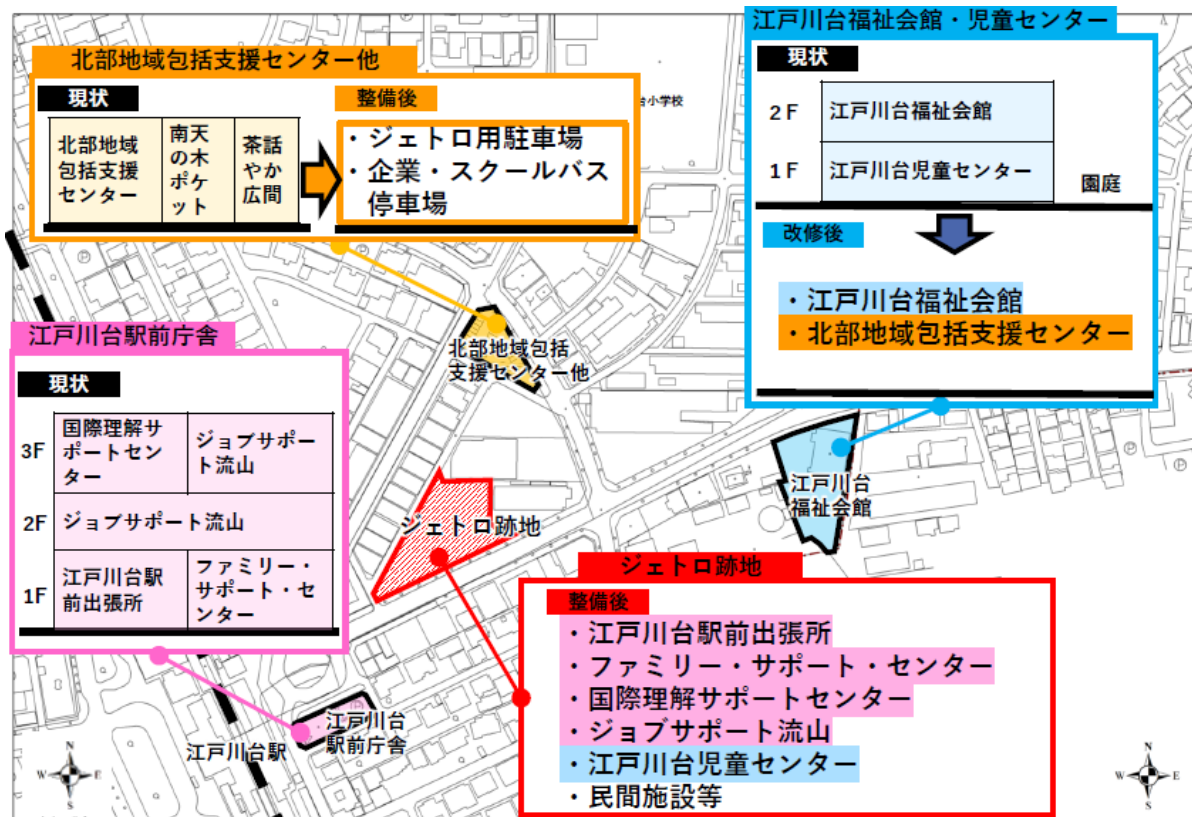
■施設全体に共通する機能

| 方針 | どんな場 | 必要な機能 |
|-----------------------------|---------------|---------------------------------|
| ④高齢者、障害者、子どもの他、誰もが安心して過ごせる場 | 誰もが利用でき過ごしやすい | バリアフリー ユニバーサルデザイン インクルーシブ |

■個別の機能

| 方針 | どんな場 | 必要な機能 |
|-----------------------------|-----------------|--|
| ①便利で豊かな日常の暮らしの場 | ふらっと立ち寄りくつろぎたい | カフェ レストラン など |
| | 日常に便利な公的機関がほしい | 『江戸川台駅前出張所』 |
| ②子どもを集め、多世代の交流の場 | 子ども中心に集まって交流する場 | 『児童センター』 会議室等 |
| | イベント等が行える場 | 屋外広場、屋上スペース |
| ③地域の活動の場 | 趣味などを活かして活動する場 | 多目的室等 |
| | 企業や団体等の活動の場 | シェアキッチン、工作室等 チャレンジショップ |
| ④高齢者、障害者、子どもの他、誰もが安心して過ごせる場 | 誰もが利用でき過ごしやすい | 『国際理解サポートセンター』 『ファミリーサポートセンター』 『ジョブサポートセンター』 |
| | 安心安全につながる場 | 防災施設 |

■公共公益施設の集約（案）



(3) 検討委員からの提案

- ・これまでの事務局案及び説明を踏まえて各検討委員による提案発表を行い、その後、意見交換した。

≪検討委員からの提案≫

【染谷委員、吉岡委員】

下記提案資料（P5-8）のとおり提案された。

令和6年1月17日(水)

第3回ジェットロ跡地活用に係る基本構想市民検討委員会において
障害者団体からの提案としてまとめましたのでよろしくお願いいたします。

4つの活用方針から5年、10年後でも、誰もが使えて誰もが必要と願う施設を作る為に下記の提案を
障害者団体からさせていただきます。

誰もが障害を持つ可能性があります。耳や目、手足など、知的療育発達、心も含めてバリアを感じるこ
とが増え、未来への希望を持つことが困難になります。

多くの希望やできる事が一つでもあることは大切です。まだできるぞ！を体験し、まだまだできる、まだ
まだ元気だよと感じ、伝えられる施設になる事を願います。

そして障害当事者の声をもとに、共に生きる社会作りが実現することを切望します。

【要望する施設】

1. イベントホール・多目的ホール

300人程度が集まれる場所（分割して使えるような設備）災害時は、
個別避難所として活用耳が聞こえにくくなくても振動と光で音楽が楽
しめて、目が見えにくくなくても音や色光などを感じられる設備を整
えてほしい。

できる事が少なくなっても、新しいできるを感じられるイベントが行われる場所として考えていただき
たいです。



2. 工作室や作業室

木材などを加工して作品などを作る部屋陶芸などもできて就労等
にも生かせる施設今まで経験を積まれた方から次世代に受け継ぐ
場所づくり。若者から子供たちに多くの作る喜びを伝えられる場
所として活用できる。



3. パソコン・スマホ等を利用して仕事や就労につながるを勉強ができる IT などを整備した部屋

ITを気軽に体験ができて使い方を学ぶことで生活の不便を解決できる場所

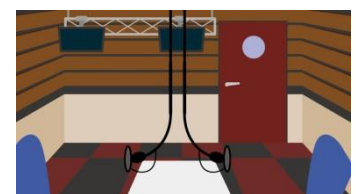
例えば、音声や振動でアクセシビリティの使い方やデジタル図書館、生活リハビリ
ができる空間



4. 発信ができる、スタジオスペース

音訊などの録画録音や、子供たちや障害児者が大きな声を出しても大丈夫な
部屋（安全のため設備等は収納できる作りにする。災害時は、市内への発
信できる機能も備える。）

江戸川台の魅力や流山市の発信できる場所として多くの情報を提供できる。



5.調理室

障害を持ったり高齢になっても使いやすいように高さ調節ができ、音声機能や光などでわかる、調理設備と調理器具誰もが使えて不便な生活になってもこんな工夫とやり方を学んで食べるものを作れる喜びを感じられる場所

6.ボランティアセンターなど江戸川台地域のボランティア育成管理場所の設置

誰もが誰かの為に何かをしてあげられる。困った方を支えられる方々をつなげられる場所

7.障害者団体が活動できるスペースと拠点場所になる設備

障害者の困ったを当事者が、どんな工夫をし、解決して乗り越えていくかを考える為の団体活動スペースと集約場所、認知症や障害者の家族を連れて息抜きができる場所あらゆる障害児者がより住みやすい体制づくりを提案できるようになる。

障害者が住みやすい街は、誰もが住みやすい街となります。



8.就労支援事業所 B 型（工賃※向上が見込める事業所）

※令和 4 年度千葉県平均工賃月 15371 円・時給 219 円市内の就労支援事業所で製作している商品の販売スペースの設置

建物などの清掃や多くの仕事をまとめられる。流山市内の企業のお仕事をまとめてお手伝いができる場所の設置

ジェットロ跡地内のカフェがその仕事の一つであってもよいのではないかな。

障害者の働く姿が日常の風景となることを期待します。

販売スペースについては、障害者週間の来場者アンケートでも希望がありました。



9.室内スポーツ場（障害者スポーツや誰もができる室内レクリエーション場）

障害がある人でもできるスポーツは、少しずつ体の運動機能が落ちてきた人でも参加しやすいものです。また、子供の発達が遅い状況でも、できる体験が得られるので成長の助けにもなります。

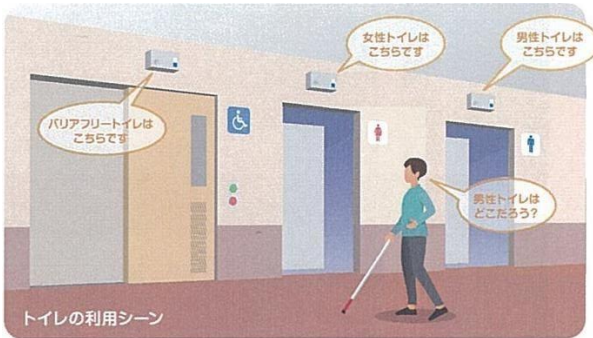
10.子供が楽しめる。体験できる室内・屋上遊び

空に向かって何かができる体験は子供にとって希望と夢を持てるものです。



11.流山市北部地域の災害拠点、福祉避難所として使える設備と施設

流山市北部として災害拠点になり、高齢者・障害者などの弱者に対しての福祉避難所として活用できるように、あらかじめの設備と備品の備えをしていただきたいと思います。



トイレの利用シーン

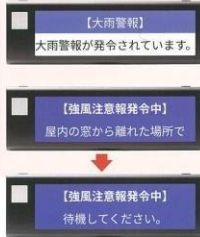


施設エントランスの利用シーン

緊急情報を手動で切り替えることもできます。

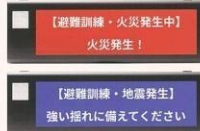
【緊急情報】

管理画面の操作による指示で配信されます。



【避難訓練・防災訓練】

避難訓練、防災訓練にも活用できます。



警報情報の受信以外にも有事をお知らせしたい時には、通常運用から手動で切替えることができます。

非常放送と連動し、火災情報や災害情報(Jアラート等)を自動で表示させます。



12.障害者就労支援センターの移設（現状：駒木台福祉会館近くにある）

流山市内の障害者が通うには、現在の場所では一般交通機関を利用してでも困難である。ジョブサポートセンターが入ることが予定されており、2つが繋がれば、より就労の幅が広がる可能性があり、施設の設備を利用することも可能になる。

障害者が労働者となることで、社会に貢献できる機会が増える。



【現状入ると思われる、公共施設への要望機能と設備】について

1.駅前出張所のロビーに障害者・高齢者が待ち合わせができる空間

一坪程度の相談スペースの設置を 5 か所程度。

ユニバーサルデザインを基に、色などに配慮した優先ベンチがあれば、より見守りができるスペースとなる。



2.建物全体のロビーなどに、ボランティアコンシェルジュなどが配置できるスペースの確保



3.江戸川台福祉会館をはじめとして、市内の2階にある福祉会館にエレベーターの設置

4.北部包括支援センターなど近隣の施設案内が誰もがわかりやすい音声・文字情報でできる仕組み

5.江戸川台駅から車と交差が無い歩行通路の確保、東武駅より 2 階部分で直接建物まで入れる空間づくり（歩道橋など、両側店舗などのおかげ歩橋）



6.児童センターに必要な対応について

障害児も利用できる工夫と大きな声を出したり、走り回ったりしても気兼ねなく利用できる場所にしてほしい。

例えば、現状、乳幼児や児童生徒が利用する特定時間帯があるように、障害児利用日や時間帯をすることで、親同士の交流の場ができる。日常の不安や困りごとを共有し、話し合いや情報交換ができる場にもなる。

また、利用状況の把握などや利用する方の交通手段も鑑みて、移設を検討してほしい。

自転車が乱雑に駐輪されないか。児童や生徒が利用するときの決まりなどやベビーカーの置き場所についてなどを考える必要があると思います。



【坪井委員、熊谷委員、長瀬委員、三好委員、杉浦委員、樫木委員、志見委員、加藤委員、富田委員】
下記提案資料（P9-11）のとおり提案された。

2024年1月17日

検討委員の皆様へ

ジェット口跡地活用に係る基本構想（案）

これまでの検討状況を踏まえ、ジェット口跡地活用に係る基本構想（案）の原案を提案します。

この案をもとに議論を行い、その結果をジェット口跡地活用に係る基本構想市民検討会の結論としたいと思います。

提案者（検討委員）

坪井 憲次 熊谷 嘉子 長瀬 公二 三好 和彦 杉浦 明

樫木 千佳 志見 壮一 加藤 美佳里 富田 宏

ジェトロ跡地活用に係る基本構想案

<地域社会の変化と 顕在化する社会問題>

| | |
|-----------|--|
| 地域社会の構造変化 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域人口がこの 14 年間で 10% 減少 2) 高齢者の割合の増加(この 14 年間で 30.8% から 37.7% に上昇) 3) 働く世代の割合がこの 14 年間で2割減少 4) 子どもの数の減少(この 14 年間で 600 人が 500 人割れ) 5) 地域の消費活動が継続して衰退 |
| 顕在化する社会問題 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療・介護ニーズの増加と支援を必要とする高齢者の増加 2) 地域の消費活動の低迷と商店街の衰退 3) 地域内インフラの老朽化 4) 地域社会を支える各種組織の後継者不足 5) 「孤立」する子どもや老人の増加 |

<江戸川台の魅力と課題>

| | |
|---------|---|
| 江戸川台の魅力 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 緑の多い落ち着いた住宅地 2) 東京にも出やすい便利な交通立地 3) 近くに小学校・幼稚園・保育所・児童施設が備わっている 4) 程よい近隣関係が形成されている 5) 高台に位置し、災害の危険性が比較的低い |
| 江戸川台の課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の人口構成が高齢化し街の活気が失われつつある 2) 高齢化と人口減少は地域商店街の衰退を招いている 3) 図書館や文化施設などのインフラが整備されていない 4) 地域交流の拠点が少なく、ふれあいや交流の場が少ない 5) 働く若い世代に住んでもらえるようなまちづくりが必要となっている。 |

<江戸川台の目指すべき地域像>

| | |
|---------|---|
| 基本理念 | 世代を越えて住み続けられるまち |
| 目指すべき目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 子育て世代に選ばれるまち <ul style="list-style-type: none"> ・程よい暮らしやすさが感じられるまち ・緑の多い、落ち着いたまち ・学校や保育所・幼稚園・児童施設が近くにあるまち 2) 地域社会の活力が維持できるまち <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の場が確保されているまち ・住民の居場所のあるまち ・ふれ合いと交流の機会のあるまち 3) ふるさととして愛着を持てるまち <ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちに思い出を残せるまち ・緑や自然が残されているまち |

<ジェトロ跡地施設の性格と求められる機能>

| | |
|------------------|--|
| 基本的性格 (活用方針) | 行政サービス提供施設と交流支援施設を併せ持つ複合型公共施設とする |
| ジェトロ跡地施設に求められる機能 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 多様な行政サービスの提供機能 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所で多様な行政サービスが受けられる ・災害時の被災者支援機能を有する(災害時帰宅者支援機能等) 2) 市民の交流支援機能 <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の場が確保されている ・「憩いの場」「居場所」としての機能を持つ ・ふれあいと交流の機会が得られるスペースがある 3) 地域のシンボルとしての機能 <ul style="list-style-type: none"> ・住民に親しまれるデザイン ・緑や広場スペースの確保 ・障害者も健常者もともに使えるバリアフリーの施設 |
| 施設内容 | ジェトロ跡地施設の整備方針(別紙)によるものとする |

ジェット口跡地施設の整備方針

ジェット口跡地活用に係る基本構想市民検討会

| 施設の基本的機能 | 最優先に整備すべき施設・設備と整備方針 | 今後検討を要する施設・設備と整備方針 |
|---|--|---|
| <p>多様な行政サービスの提供機能</p> | <p>①江戸川台駅前出張所/市民課窓口（現 JA ビル 1F）（移設） ⇒一定の広さを確保するとともに障害者、高齢者の利用を考慮する</p> <p>②北部地域包括支援センター（移設） ⇒相談機能等のさらなる充実を図る</p> <p>③江戸川台ファミリーサポートセンター（現 JA ビル 1 階）（移設） ⇒子育て支援機能のさらなる充実を図る</p> <p>④災害時帰宅者支援ステーション（新設） ⇒防災備蓄品の確保、災害情報の提供（防災危機管理課との連携）を行う</p> | <p>①流山市地域職業相談室（現 JA ビル 2 階）（移転） ⇒全市域の住民を対象とする施設であるため交通利便な他所へ移転する（おおたか又は南流山駅近くのオフィスビルに移転するのが望ましい）</p> <p>②国際理解サポートセンター（現 JA ビル 3 階） ⇒事業は業務委託をしており、事務所機能は別の場所にある 事業実施の際は専用会議室は置かず、新施設の一般会議室を使用する</p> <p>③江戸川台保育所、幼児教育支援 C 付属幼稚園、江戸川台福祉会館 ⇒今回のジェット口跡地整備事業の対象外とする</p> |
| <p>市民の交流支援機能 （交流の場・いこいの場 ・地域活動の場）</p> | <p>①多目的ホール ⇒収容人員 100～150 名程度、講演会や軽運動可能なもの</p> <p>②エントランスホール ⇒ストリートピアノが置け、ミニコンサート可能なもの</p> <p>③各種会議室 ⇒中型 1、小型 2、程度の複数の会議室を設置</p> <p>④キッチン付集会室・器材倉庫 ⇒子ども食堂、料理教室等が実施できる規模のもの</p> <p>⑤NET 接続可能なワークスペース付小図書館 ⇒学生や一般人が利用できるワークスペースを備えた小図書館を設置</p> <p>⑥市民プレイルーム（多世代交流の場） ⇒工作や編み物、人形劇、おもちゃ修理等多様な市民活動が可能なスペースを設置</p> <p>⑦喫茶コーナー（みんなの居場所） ⇒飲食店営業施設を付随させた市民のたまり場、打ち合わせ場所を設置</p> <p>⑧施設のバリアフリー化 ⇒障害者も利用できるトイレや点字案内等、施設のバリアフリー化を目指す</p> | <p>①屋上子ども広場・老人ひなたぼっこ広場 ⇒屋上の利用可能性を検討する</p> <p>②井戸の確保、雨水再利用システム採用の検討 ⇒災害時等での水の確保対策を検討する</p> <p>③フリーマーケットコーナー（地域バザール） ⇒住民が自由に物販活動や物々交換できるコーナーを整備する ⇒施設外広場等を利用し、複数の団体が期限付・交代で利用することを検討</p> <p>④さわやか広間・南天の木・ショップポケット ⇒代替施設があるため、廃止の方向で検討 ⇒障害者の活動の場の確保に留意する</p> <p>⑤市民作品等展示ギャラリー ⇒エントランスホールの壁面等を利用し市民作品等を展示する</p> |
| <p>地域のシンボルとしての機能</p> | <p>①住民に親しまれるデザインと機能を有する ⇒空間設計の導入（吹き抜けやスロープの導入等） ⇒基本設計時にデザインコンペ等を取り入れる ⇒緑化された施設外広場の確保</p> | <p>①駐車場・駐輪場の確保方法の検討（アクセスの容易さの確保）</p> <p>②駅前広場と一体となった緑道等の整備を検討</p> <p>③緑地広場にビオトープの設置を検討 ⇒例：ミニ田んぼ、メダカの泳ぐ池</p> |

<施設の管理運営について> ※庁舎を除く部分は「公の施設」であり、指定管理者による管理運営（流山市指定管理者の運用に関する指針参照）など、市民満足度の高いサービスを持続的に提供できる管理体制を検討すること。
※地域住民の施設利用については原則無料とすることを検討すること。

【三好委員】（上記説明の抜粋）

- ・北部包括支援センターは、お年寄りにとってなくてはならない施設で、一番人気のある大事な施設であることから、離れたところに置くのではなくてまさにジェット口跡地に整備すべき。
- ・江戸川台福祉会館（児童センターも含む）は、ジェット口跡地の整備事業の対象外とするべき。

【高野委員】

- ・駐車場を整備し、車で来て、商店街にも買い物に行けるようにしてほしい。

【高坂委員】

- ・ジェット口跡地は駅前であり、市民の方、商売をやっている方含めて、皆さんが集えるところということを前提に考えていただきたい。
- ・地域の福祉や行政サービスだけではなく、駅前の顔となる賑わいを出してほしい。民間の力を利用した集える場所、駅から降りた人が来たくなる場所にしたい。

【照沼委員】

- ・事務局案の4つの方針は全て必要であるが、どの項目を重視するかが、議論に必要なポイントであり、特に②番「子どもを集めた多世代の交流の場」及び③番「地域の活動の場」が必要と考える。
- ・②番「子どもを集めた多世代の交流の場」として、子どもを集めるための「児童センター」や「子育て世帯の支援になる機能」が必要である。また、③番「地域の活動の場」は、多世代の住人が交流し、緩やかに繋がるような場が必要である。
- ・坪井委員他の提案については、「江戸川台の課題」の「4）地域交流の拠点が少なく、ふれあいや交流の場が少ない」と「5）働く世代に住んでもらえるようなまちづくりが必要となっている。」が特に重視すべき課題と認識していて、そこが解決されるとその他の課題が緩やかに解決されると考える。
- ・子どもを中心に地域活動の場にしていくことが、重要な機能だと思う。

【赤地委員】

- ・江戸川台は成熟しきった街で開発の余地がなく、人が増えにくい。
- ・初石や運河には、大きなマンションがこれからも建とうとしている。野田もホテルができるなど野田線沿線は結構元気なところもあるが、江戸川台はポツンと取り残されてしまっている感じがする。
- ・初石駅では、橋上化の工事と新たな東口ができ、防災拠点として防災トイレ等ができる。本検討会では、防災視点が話題にあがっていない。1月に発生した能登の地震を見ても、防災拠点が非常に大切であり、特に水の問題としてトイレと水循環式のシャワーの二つが非常に重要だと感じた。
- ・魅力がある施設が少ない。若い人はおおたかの森や柏の方に買い物に行っているのので、江戸川台に来てもらえるような施設を目指していくべき。

《意見交換》

【三好委員】

- ・事務局案の公共公益施設の集約案では、福祉会館を集約対象としているが、流山市議会第4回定例会の一般質問において、江戸川台駅前庁舎、北部包括支援センターのほか、さわやか広間、南天の木ショップポケットが対象となると答弁された。なぜ福祉会館を含めることとしたのか。

【事務局】

- ・第2回検討会での「子どもが集まれる施設が必要」という皆様の意見を踏まえ、福祉会館にある児童センターを案として提示したものである。

【三好委員】

- ・それでは、第2回の検討会はいつ行われたのか。

【石田座長】

- ・本検討会は、委員と市が対立する場ではなく、委員の皆さんが話し合う時間である。市への質問は別の機会にお願いしたい。

【熊谷委員】

- ・自治会が出した提案が良いと思う。
- ・北部地域包括支援センターの移転先として、福祉会館はエレベーターがなく高齢者が使いにくいいため、ジェット口跡地に移転すべきと考える。

【高坂委員】

- ・行政サービスに関わるものを全て入れたいという意見は分かるが、駅前立地であることから、駅前ににぎわいをつくりたい。
- ・能登半島地震で「防災」が注目されており、新しい施設に防災施設を重視することは理解できる。しかし、福祉会館や江戸川自治会館に既にそういった施設があり、また、改修すればできるものもあると思う。
- ・他にないランドマークとなる施設として、1回目からの討論でカフェが必要と共有しているので、カフェレストランや書店など、例えば麻布台ヒルズのTSUTAYA書店のようなものがあると良い。
- ・60年前ここに移り住んだ人たちは、千葉県初の文化都市を期待してきた。江戸川台には故後藤純生先生の実家がある。故後藤純さんの記念館があれば、全国から人が呼べ、魅力になる。

【坪井委員】

- ・床面積が最大約3,000㎡で、エレベーター等を除くと1フロア900㎡程度である。
- ・スペースに限りがあるので、検討委員会で、この施設は他の地域でもいいのでは、となった場合、庁内の関連部署との調整をお願いしたい。
- ・皆さんが提案される施設を全て入れることは難しく、優先順位を考えてもらいたい。稼働率とか、地域から見て利用が多いのかなどを考えてほしい。

【加藤委員】

- ・施設の大きさは決まっているので、何が一番大事かを決めなければいけない。
- ・民生委員やっており、北部地域包括センターには、たくさんのお年寄りが相談に来る。そこで相談し、話をすることで、高齢の方が安心して江戸川台で暮らせると考えている。そのため、ジェット口跡地に最優先で入れてもらいたい。
- ・児童センターについて、子どもたちが元気に遊ぶ場を常時確保するためには、かなり広いスペースが必要である。今の場所にはグラウンドがあり子供たちが外で遊ぶことができるため、福社会館に残した方が良いと考える。
- ・故後藤純生さんの息子が同級生であり、江戸川台で色々なことをやりたいと聞いている。作品を飾れる記念館を作ることは賛成である。
- ・みんなでちょっと楽しんだりできる広いスペースやストリートピアノがほしい。

【杉浦委員】

- ・北部地域包括センターは、高齢者の方のケアに関するだけでなく、自治会の見守り活動について相談したり、地区社協の関係で話に行ったりすることがあるため、このエリアの中心にあった方がいいと思う。
- ・子ども達の場として、児童センターを単に移動するというのではなく、子ども達に対する新しい施設として、高齢者も含めた交流やコミュニティづくりに目を向けるべきだと考える。

【富田委員】

- ・これまで何回か議論を重ねてきたが、公共公益施設の集約が一番大事と考える。
- ・駅前の公共施設がなくなると困ってしまうことを考えると、困ることを直せばいい。公共施設、或いは民間施設等について、何を入れるか議論する前に、公共公益施設の内容を決めないといけないと思う。
- ・今回の意見を踏まえて庁内で合意を得ていくことになるが、早い段階で具体的に進めないと終わらない気がする。
- ・もう少し早いタイミングで公共公益施設の集約について議論をしたかった。

【長瀬委員】

- ・ジョブサポートセンターは、利用頻度が非常に低いことが分かり驚いた。
- ・江戸川台は高齢者のまちであり、ジョブサポートセンターは転職や新しい職を望む人のための場所である。
- ・人が集まる需要が多いところにあった方がいいのではないかと思います。

【熊谷委員】

- ・ジョブサポートセンターについて、私が利用した際、相談する人がおらず、機械を使っている人もまばらで非常にもったいないと感じた。
- ・若い人たちが待っている状態ではないため、やはりここではなく、おおたかの森や南流山に移ってもらった方がいいと思う。

【榎木委員】

- ・検討会に参加し、皆さんとこの地域に対する意見交換でき、2回目まではよかったが、本日、公共施設の集約についての議題となり、急だなと印象がある。私としては行政施設だけで対応できるものではないと考えている。

- ・そのために、皆さんの意見を少しでも汲み取っていただきたい。障害者の方の声も聞いていただきたい。
- ・シンボルとなる施設であること、行政のものだけが集まるのではなく、地域の人達がたくさん集まれるようにしたい。
- ・防災施設は必要である。

【赤地委員】

- ・江戸川台駅前庁舎をジェット口跡地に移す計画とのことだが、移転後の駅前庁舎はどうなるのか。

【事務局】

- ・江戸川台駅前庁舎は、駅前広場の拡幅用地として取り壊し、最終的に駅前広場となる計画である。

【高坂委員】

- ・江戸川台駅前第1ビルは、市に売却することで決定している。駅前広場になり基本的には建物が建たないため、ジェット口跡地は駅から見える1等地となる。
- ・いらないものは入れないという議論も必要だが、将来を考えてぜひこれは入れたいという具体的な議論をした方が、明るい提案が出てくると思う。

【照沼委員】

- ・江戸川台のまちがどうなるかということ、ジェット口跡地をどうしたいかという議論が前提にあって、この内容も決まると思う。この施設は違う、これが良いという議論をしても、皆さんそれぞれの必要な視点に差があるだけだと思う。
- ・事務局の基本方針は、「豊かなくらしと次世代を育む誰もがつながる場づくり」として、これまでの議論をまとめていると思う。これまで議論してきたので、ここは多分同じ思いであることを共有した上で、次の議論をしていきたい。
- ・新しい世代を呼び込むことが最重要であると三好委員が話され、本当そうだなと思っている。全ての機能が大事ではあるが、新しい人を呼び込むことと、今住んでいる人が流出しないこと、この二つに寄与する機能が最も重要と思っており、そのための拠点をつくるのがポイントと考える。

【三好委員】

- ・参考に流山市の人口推移のデータを紹介する。平成23・24年度頃は転入が9000人で、転出が8500人程度であったが、転入人口が年々増加し毎年1万2000人程になっている。しかし近年、転入数は変わらず多いものの、転出数が急増している。
- ・原因についてはもう少し分析が必要だが、この傾向はおおたかの森地域が顕著であり、子育てするため多くの若い人達が来たが、その子どもが中学生、高校生になると去っていくのだと思う。
- ・これが、流山に愛着を持てる人たちを増やさないといけないと考えた理由である。江戸川台で育った子どもは地元に戻る率が高く、自治会役員も同様である。
- ・若い人たちを呼び込むためにはどうしたらいいか、そしてただ来てもらうことではなく、ここに住んでもらうためにはどういう条件が必要かという議論をしていければいいと思う。

【高坂委員】

- ・江戸川台が高齢化した根本的な原因は、駅前や商店街ではなく、自治会でつくられた50坪規制だと考えている。住みたいと思っても、土地を分割できないことが一番の問題である。
- ・住宅環境を守ろうと考えることともに、江戸川に住みたいと考える人が来れない現状を変えていかないといけない。このことについて自治会の方で議論していただければ解決すると考える。
- ・ジェット口跡地には、明るい施設を作るために具体的な話をされるのが一番必要であり、自治会と商店街にとって一つの大きな夢になる議論になると思っている。

【富田委員】

- ・本日出た意見は、今後どのように扱われるのか。

【事務局】

- ・本日の意見を整理した上で、具体的な公共施設の配置案について庁内調整し、第4回検討会でお示しする予定である。

【加藤委員】

- ・トライアルサウンディングとして、ジェット口跡地でイベント等を行っているが、目的が理解されていないと思う。また、駅前広場や商店街も含めて一緒に考えていくことが必要であるが、ジェット口跡地だけで取り組まれておりバラバラな気がする。その辺について、しっかり説明してほしい。

【事務局】

- ・トライアルサウンディングについては、現地に掲示板を設置するなどして周知を図っていきたい。
- ・本検討委員会は、ジェット口跡地の将来に関するご意見をいただく場であるが、事業は単体で進めていくものではない。
- ・駅前広場、商店街、ジェット口を相互連携しながら江戸川台全体を良くしていきたいと考えている。次回開催において、駅前広場の整備状況や商店街での取組内容などをご報告し、ジェット口跡地活用の検討の一つにさせていただきたい。

【石田座長】

- ・皆さんで話し合うことでかなりイメージが共有されてきたと思う。皆さんの案と事務局案はよくよく見るとかなり重なっていると感じている。
- ・事務局から、今回の意見を踏まえ庁内調整を進めると説明があり、次回、具体的な基本構想案に対してまたご意見をいただければと思う。

・その他報告事項

- 事務局から、事例視察の予定について報告した。

・検討会資料

第3回の検討会資料については、市ホームページで公開しています。

下記のQRコードを読み込むか、市ホームページ上で「第3回検討会」と検索してください。



▲第3回検討会ホームページ